



伯州綿のコットンボールを手に取り、中村市長にその特徴を説明する近藤氏（左）＝19日、境港市中野町

# 「伯州綿は有望」

境港

オーガニックコットン専門家が視察  
事業展開にアドバイスも

オーガニックコットンで知られる大正紡績（大阪府取南市）の取締役営業部長、近藤健一氏が19日、和綿の栽培では今や日本一となつた境港市を訪れ、伯州綿のほ場を視察。「和綿をここまで作っているところは国内にはほかにない。伯州綿は大変有望」と高く評価し、今後の栽培と事業展開についてアドバイスをした。

近藤氏は、世界179カ国を回り綿花を買い付け、各地でオーガ

ニック栽培の普及活動に取り組む。もともとエンジニアで糸の開発でも有名。伯州綿も同社で糸にされている。

この日、中村勝治市長や市の担当者とともに、市農業公社が遊休農地を使って伯州綿を有機栽培している現地を視察した近藤氏は、コットンボールを手に取り、「ふわっとして弾力があり、繊維が強い。ジン（綿繰り機）次第で相当いいものができる」「かためて栽培しているところがいい。あとは剪定と間引きをすることもっと綿の繊維が長くなるだろう」と指摘。

伯州綿のブランド化と、製品化の応用範囲が広がる洋綿も併せて栽培することを勧め、「素材だけでなくものづくりまで、趣味の世界から一歩進んで産業を創出してほしい」とエールを送った。

中村市長は「我々の取り組みが前に向けて開けるようだ。さらに取り組んでいきたい」と意を強くしていた。